



援農に参加される方へ

NPO 法人
理事長
事務局長
携帯電話
メール

すずしろ22
清水義秋
飛田恵美子
070-4449-2641
emiko_tobita@ybb.ne.jp

ホームページ <http://www.suzushiro22.org/index.html>

ようこそ 『すずしろ22』 援農活動へ

会員間相互扶助精神のもと、有償ボランティア方式による援農活動の展開により、
『農家のお役にたきたい』、『農業活性化に寄与したい』、『環境保全につなげたい』と思います。

(1) 参加の条件

会の趣旨に賛同いただき、入会申込書を提出してください。また、会費：1,500円/年を
ゆうちょ銀行 10040 21626131 『特定非営利活動法人すずしろ22』または『トクヒ) スズシロニジュウニ』の口座にご入金願います。

(2) 参加希望の連絡

ご都合のつく日時、交通手段を事前に事務局までご連絡ください。農家からの要望と調整し、ご連絡します。

(3) 参加時に配慮いただきたいこと

作業時間にあわせ、お弁当(おやつ)・飲み物をご持参ください。
帽子・防虫、すり傷防止のための長袖シャツ・手袋の着用を推奨します。
詳しくは、「援農のしおり」をご確認ください。また「ヒヤリハット集」も参照してください。

(4) 援農時間の記録

実施した援農時間を『援農作業実績表』に記入し、農家に確認してもらってください。記入は30分単位とします。

(5) 謝礼の支払い

援農時間×(500円/時間)を月間単位にまとめお支払いします。

(6) 傷害・事故への対応

会員の傷害保険は、「NPO法人すずしろ22」にて加入します。
保証内容：死亡500万円 入院5000円/日 通院3000円/日
※交通事故には適用されません。
※傷害・事故の防止に十分配慮してください。

(7) 作業におけるご意見等は、当事者間でなく事務局にお知らせください。

改定第4版：31-MAR-2022



援農作業における傷害や事故防止のために

NPO法人 すずしろ22

改定第2版:15-APR-2021

安全への配慮は最優先事項、自己責任のもと安全確保に努めましょう。

○“だろろう作業”から“かもしれない作業”へ

「あぜ道ではすべらないだろろう」から、「すべって転ぶかもしれない」へ。

○事例に学ぶ

『人間は体験した事例を身体でおぼえ、再発防止に役だてることのできる』とか。発生した事例を事前学習して、事故の事前防止につなげましょう。

農の現場での「ヒヤリハット事例」を紹介します

①50cmほどの高さのあぜ道なので平気だろろうと跳び下りたら、捻挫してしまった。

* くじくかもしれないという予見……体力の衰えは、残念ながら本人の自覚以上かもしれません。

②農道で滑って転び、持っていた農具で怪我をした。

* すべるかもしれないという判断……農具は、転んでも怪我をしない持ち方をしましょう。

③畑の異物を踏んで、足に怪我をした。

* 見えている異物は予想以上に危険かもしれない……底厚の靴を着用しましょう

④支柱立て作業で、ポールがおれて腹部を痛めた。

* ポールは、経年変化で弱っているかもしれません……折れたポールが身体に当たらぬ体位を取りましょう。

⑤グラスファイバによるトンネルづくり作業で、指にファイバの刺をさした。

* グラスファイバの繊維は、細く割けることがあります……手袋は必ず着用しましょう。

⑥真夏の作業で、熱中症を体験した。

* 帽子は(頭部保護のためにも)必需品。飲み物は身近に置き、適宜水分を取りましょう。



⑦鎌による草取りで鎌がすべり、足先を怪我した。

* 鎌が石等の異物に当り、力のコントロールが狂うかもしれません……手袋、安全な靴の着用をしてください。

⑧あぜ道がもろく、数メートル下を流れる川まで転落した。

* あぜ道の斜面は 雨がふりますと、意外にもろくなっているかもしれません……状況の慎重判断をしてください。

⑨左手で草をつかんで刈るとき、右手の鎌で左指を切ってしまった。

⑩材木を二人で運び降ろすとき、掛け声をかけなかったため、タイミングが合わず一人の足の上に材木が落ち、足の指を骨折した。

⑪ハウス内作業で、はりに頭をぶつけコブを作ってしまった。

* ハウス内には支柱の強度を保つためのワイヤやひりが横に渡っております。足元だけでなく頭上にも注意しましょう。

⑫農道で車の方向転換をしようとして脱輪した。

* 農道は狭く、また側溝が草で覆われ見えにくくなっております。方向転換時はもちろん、すれ違い時にも注意しましょう。

⑬自転車で走行中、道路の白線で滑って転倒し、怪我をした。

*道路の白線や標識等のペイントは意外に盛り上がっていて、滑ります。特に雨天路面がぬれている時は、要注意です。

刈払機による作業は、事前の教育が必要です。トラクタ運転・チェーンソー作業は、禁止です。

体験した「ヒヤリハット事例」を連絡してください。事故防止に活用させてください。



この「しおり」は、援農の初心者を対象に援農における初歩的な心得や知識をまとめたものです。わからないことは、先ず農家さんに聞きましょう。

まずはご自分の健康状態を確認の上、援農に参加しましょう。援農においても安全が最優先です。何かあった場合、広い畑の中では発見が遅れ救急対応も遅れがちです。体調不良を感じたら、すぐに作業を中断し周囲の方に伝えましょう。また、季節にかかわらず、熱中症予防のためにこまめに水分や塩分を取るようしてください。健康管理は自己の責任です。安全最優先で援農をしていきましょう。

服装について

手足を動かしやすい汚れてもよい服装が基本です。怪我や虫刺され予防のため長袖、長ズボンが望ましいですが、周りを参考にされるのも良いでしょう。

- 帽子は埃や直射日光、怪我や日焼けなどを防ぐものとして必要です。
- 手袋は怪我や汚れを防ぐものとして、作業しやすい手に合ったものが良いでしょう。
- はきものは畑を荒らさず、軽くて疲れにくい地下足袋が基本ですが、雨の日用の長靴も必要です。
- 夏も基本は同じですが、汗をかきますので通気性のよい薄地の作業着が良いでしょう。
- 冬も基本は同じですが、寒さ対策を工夫してください。
- ハウス作業は内外の気温差が大きいので、着衣の着脱をこまめに行うと良いでしょう。

休憩・・慣れない作業を続けて足腰の疲れや疲労感が出て来た場合は、遠慮なく一休みしてください。休まず続けていると作業能率を落とすばかりではなく、事故や怪我につながります。夏場は大汗をかきますので、水分補給と一休みを適宜取るよう心掛けてください。

連絡・・農家の方は、皆さんが約束の日時に来られることを前提に仕事の段取りを立てており、休んだり遅れたりすると仕事の予定が狂って、迷惑をかけることとなります。事情があって、約束の日時に休むとか遅れる場合には、必ず連絡をしてください。連絡が当日の場合は、援農先に直接が望ましいでしょう。

確認・・仕事の基本は「正しい手順で素早く」ですが、基本は同じでも華道や武道に沢山の流派があるように農作業でも地域や農家さんによってやり方が異なることがあります。まず、農家さんのやり方を知ることが大切です。やり直しや失敗を防ぐため「自己判断」せず、正しい作業方法の確認をしましょう。

安全・・農家さんがトラクターや刈払い機を使用している時には、絶対に近づかないでください。重大な事故に繋がる恐れがあります。鎌などの刃物、雨でぬかるんだ畑、野菜などが入った重い箱など農作業には扱いを間違えたり、注意を怠ったりすると事故や怪我に繋がる危険なものがあります。正しい扱いの確認、周辺の危険物の確認など、注意を怠らぬようにしましょう。

畑の中・・耕耘してフカフカになっている畑の中は、歩いてよい通路があります。通路以外を歩くと畑が踏み固められ、種を蒔いたり作物を植えつけることに不具合が出たり、作物の生育が悪くなったりします。通路の確認をして歩きましょう。

仕事中の私語・・気の合う仲間との適度なおしゃべりは気持ちをリラックスさせ、仕事の能率を高める効果もありますが、一方、長々としたおしゃべり、手を止めてのおしゃべりは仕事の能率を落とし、不快と感じる人もおります。仕事中のむやみな私語は慎むようにしましょう。

携帯電話・・作業中は原則として使用しないようにしましょう。必要な場合はポケットなどに入れて、作業の邪魔にならないようにしましょう。